

シンポジウム 「縄文の装身具を考える」

予稿集

今回のシンポジウムでは日本列島に於ける縄文時代の装身具、特に石製装身具研究の現状を踏まえ、これからの研究方向と問題点を整理する機会と位置付けている。地域毎の装身具の種類・形態、副葬や組合せなどの諸特徴について、それぞれの地域で装身具研究に取り組む研究者が最新の研究成果を取り上げ、新たな視座からの問いかけを行なう。



- 趣旨説明 栗島義明(明治大学黒耀石研究センター)
- 「北海道の後・晩期の石製装身具」 柳瀬由佳(北海道埋蔵文化財センター)
- 「北東北における縄文前期～中期のヒスイ加工」 山地雄大(青森県教育委員会)
- 「福島県の縄文時代におけるヒスイ製装身具について」 山本有紀(福島県教育委員会)
- 「中部高地の石製垂飾」 野代和幸(山梨考古博物館)・林亮太(釈迦堂博物館)

<休憩・昼食>

- 「中部日本における土坑墓から出土する副葬品と装身具」 坪田弘子(玉川文化財研究所)
- 「境A遺跡における翡翠利用—大珠製作を中心に—」 川端典子(朝日町まいぶんKAN)
- 「北陸地方の装身具」 久田正弘(石川県埋蔵文化財センター)
- 「装身具を纏った人物への凶行—東京湾岸域における二派の相剋—」 渡辺新(千葉縄文研究会)
谷畑美帆(明治大学)・千葉南菜子(千葉市教育委員会)

<総合討論> 司会:森山高(春日部市教育委員会)・五十嵐睦(平塚市教育委員会)

- 総括 藤田富士夫(日本玉文化学会会長)

- 日時 2024年1月27日(土) 午前9:30～午後5:00
- 会場 明治大学 グローバルフロント 2F (4021教室)
- 共催 明治大学黒耀石研究センター 日本玉文化学会

科学研究費 研究基盤(B)
「縄文時代のヒスイ・コハクを用いた装身具の総合的研究」
(研究課題20k0180・研究代表 栗島義明)